

ETJPインタビュー結果と 今後の活動方針案

2007年5月21日

第9回ETJP全体ミーティング

ETJP事務局

インタビュー結果

- 2006年9月 第8回ETJP全体ミーティング
 - 2006年8～9月のアンケート結果に基づき、ENUMおよびETJPの今後に関する具体的意向を幾つかの会員にインタビューすることを決定
- 2006年11月～12月
 - インタビュー実施
- 2007年5月 第9回ETJP全体ミーティング ←本日
 - インタビュー結果をもとに会長・副会長・事務局で今後の活性化の方針をさらに検討し、今回ご提案
 - 情報交換
 - BoF

- 2006年11月～12月
- 9会員にインタビュー
 - 通信事業者(キャリア・ISP系)
 - ベンダー(ハードウェア、ソフトウェア、ソリューション)
- インタビュー内容
 - ENUMに関してどのような活動をしているか
 - ENUM実用化で想定される運用面・制度面での課題
 - 日本と海外でのENUMに対する取り組みの違い
 - IP電話網を構築する技術としてのENUM利用について
 - 事業者間接続の技術としてのENUMを利用について
 - SIPを展開する立場でのENUMのとらえ方
 - 製品へのENUMの実装を検討しているか否か 等

- ETJPの開始当初は実験等に参画したが、既にコアの実装は終わってしまっている等の理由で、現段階では積極的に実験活動に取り組む会員はごく少数。
- 大多数の会員の活動は情報収集ベースに留まる。

- 制度面
 - 特に、ENUM用の番号に関する課題が大きい
- 技術面
 - 標準化が不十分である
 - ENUMでなくては、という必然性が欠如している
- セキュリティ
 - 十分な考慮が行き渡っていない
- ビジネス・経済原理
 - マーケットが見えない
 - ビジネス(課金)モデルが作りにくい
- その他
 - ENUMの定義(ENUMに対するイメージ)にブレ

- オールIP化の際の相互接続手段
 - 規模・網の構築方法による
- 国際間接続手段
 - 規模・網の構築方法による
- 番号ポータビリティとFMCの実現手段
- キラーアプリケーション・コンビネーションによる新ビジネス創出
- IP/DNSの特性を生かしたルーティングの仕組み
 - メールサーバーのMXレコードのような使われ方
- ENUM likeサービス
 - 番号とDNSの組み合わせ

- ENUM関連情報交換の場
- サービス創出に向けたブレインストーミングと情報交換の場
 - ENUM like サービスを含む
- ENUM技術に関する積極的な広報
- 他団体との連携(ex: VoIP/SIP TF)
- 面白い実験相手とのコーディネーション

今後の活動の提案

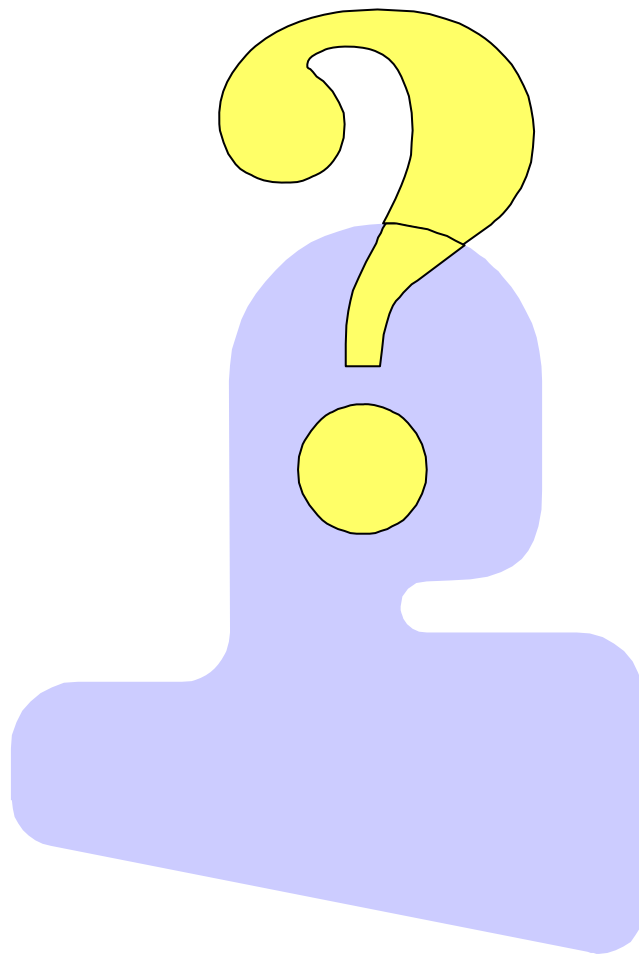
- ・ サービス創出に向けたブレインストーミングと情報交換の場
- ・ 理由
 - いくつかの会員からそのような場の設定の需要がある。
 - 活動を活性化させるための有益な場になる可能性がある。
 - そのような場の開催自体がETJPの活動の成果となる。
 - ディスカッションを通じて面白い実験相手が見つかる可能性がある。

- ・ ENUM関連情報交換の場
- ・ 他団体との連携

- ・ 理由
 - ENUM情報交換の場としては有効。
 - 機が熟したとき、すぐに動きだせるようにスタンバイしておく。
 - 国際相互接続実験が始まる際、総務省や諸外国等からのコンタクト先となる。
 - VoIP/SIP TF等他団体との連携を図ることで、随時の情報共有を可能にし、今後の急な状況変化にも備える。

- 節目の報告書公開により広く情報提供
- ・ 理由
 - ENUMに関し広く情報提供することはETJPの活動のひとつ
 - 2005年10月～2007年9月の下記活動は広報に値する
 - ・ 日本ENUMトライアルへの参加
 - ・ SIPit18への参加
 - ・ 会員による国際連携の開始

2007/05/21	ETJP全体Mtg(BoF含)開催 (情報提供、第1回BoF開催)
2007/07頃	第2回BoF開催
2007/09/下	ETJP全体Mtg(BoF含)/総会開催 (情報提供、第3回BoF開催、ETJP の継続提案)
2007/10~11	ETJP第3次報告書 (2005年10月~2007年9月の活動報 告作成)



参考

ENUM導入に向けた問題点と課題
(インタビュー結果より)

- 制度面

- 0AB～J 番号でENUMを利用するのは、ハードルが高く責任が取れない。
- しかし、050番号では価値が低くなりがちである。
- 実験用番号での実験には限界がある。

- 技術面

- NAPTRの書き換えですら標準化がされていない。NAPTRに日本語を入れるリスクがある。
- SIP(IMS)で事足りる。ENUMでなくては、という必然性が欠如している。
- 「番号の網羅性」を「DNS」と組み合わせることに対する危惧がある。

- セキュリティ
 - 「番号の網羅性」「音声の即時性」「DNS」の組み合わせを危惧している。
 - 名前空間の構築方法により、セキュリティへの対策の仕方はバリエーションがあり過ぎる。
 - DNSSECは有効だが、グローバル展開を考えた際には暗号化の輸出規制がある。
- ビジネス・経済原理
 - マーケットが見えない。競争環境がない。
 - 経済原理を考えた場合、最初に始める事業者のメリットがない。
 - ビジネス(課金)モデルが作りにくい
 - 050の時にビジネスチャンスを逃したのでは。次回はFMCか？

- その他の課題
 - 各自の持つ「ENUMの定義(ENUMに対するイメージ)」にブレがあるのでは。
 - 「目標」「コンセンサス」が不明確
 - 「サービスレベル」をどこに置くか
 - 何をもって「商用化」とするか
 - ENUM普及に向けたイニシアティブを誰が取るのか。
 - 新ビジネスに対する意欲／想像力が欠如している。
 - ENUM技術について、周知が欠如している。